

斑点米カメムシ類の水田内への侵入が多い予想

～ 防除対策は確実に実施 ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

7月4～5半旬の抽出ほ場調査（80地点）における畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り数（50cm、40回振）は3.8頭（平成3.5頭）で平成並、発生地点率は45%（平成35%）で高かった。そのうち、アカスジカスミカメ（以下、アカスジ）のすくい取り数は1.6頭（平成1.7頭）、発生地点率は16%（平成16%）でいずれも平成並であった。アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）は2.2頭（平成1.7頭）で平成並、発生地点率は38%（平成27%）で高かった（図-1、表-1）。

同調査における畦畔雑草の発生状況では、出穂したイネ科雑草が26%の地点で確認された。また、出穂したイネ科雑草や新葉が伸びている雑草がある畦畔の斑点米カメムシ類のすくい取り数は除草が徹底されたほ場と比較して多かった（表-2）。

水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り数（20回振）は2.1頭（平成0.5頭）で多く、発生地点率は19%（平成15%）でやや高かった。そのうち、アカスジは1.9頭（平成0.3頭）で多く、発生地点率は8%（平成7%）で平成並であった。アカヒゲは0.3頭（平成0.1頭）で多く、発生地点率は11%（平成8%）でやや高かった（図-2、表-3）。特に水田内に出穂したノビエやホタルイ類等が発生しているほ場では、アカスジが多かった。

7月25日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平成並と予報されている。

以上のことから、今後アカスジ、アカヒゲの水田内への侵入量が多くなると予想される。

2. 防除対策

- 1) 出穂期（ほ場全体の40～50%が出穂した日）の把握に努め、出穂期10日後頃にアルバリン剤・スタークル剤の茎葉散布剤を畦畔を含めたほ場全体に散布する。
- 2) 出穂期10日後頃の茎葉散布剤の散布当日から7日後までに畦畔や農道の草刈りを必ず行う。
- 3) 水田内に出穂したノビエやホタルイ類等が発生しているほ場、イネ科雑草が主体の牧草地や休耕田等の発生源に隣接しているほ場では、出穂期10日後頃に加えて同24日後頃にもエクシード剤又はキラップ剤の茎葉散布剤を散布する。

3. その他

- 1) 殺虫剤を散布する際には養蜂業者等と連携をとり、蜜蜂等への危害防止に努める。
- 2) 蜂場（巣箱を置く場所）が近接している場合は、蜜蜂が水田に飛来してくることがあるため、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時）の農薬散布を避け、できるだけ早朝又は夕刻に散布する。
- 3) アカスジ、アカヒゲの水田内への実際の侵入量については、今後の予察情報を参照する。

4. 資料

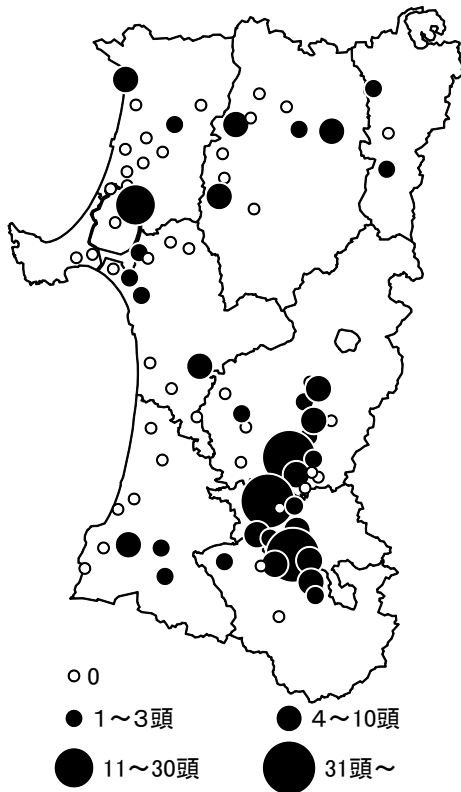


図-1 畦畔における斑点米カメムシ類のすくい取り数(7月4～5半旬)

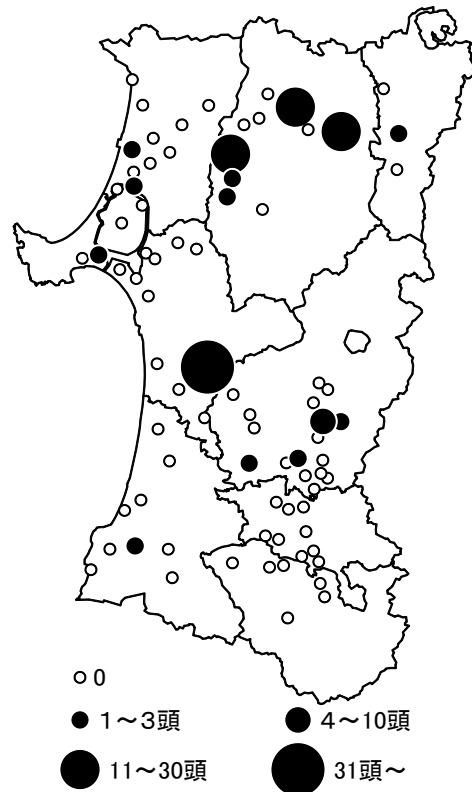


図-2 水田内における斑点米カメムシ類のすくい取り数(7月4～5半旬)

表-1 畦畔での斑点米カメムシ類すくい取り結果(7月4～5半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジ		アカヒゲ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2019	3.8	45.0	1.6	16.3	2.2	37.5
平年	3.5	34.7	1.7	15.6	1.7	27.0
概評	並	多	並	並	並	多

表-2 畦畔雑草の発生状況別すくい取り数(7月4～5半旬)

雑草の発生状況	雑草発生状況別地点率(%)	アカスジ(頭)	アカヒゲ(頭)
除草が徹底されている	28	0.5	0.7
除草しているが、新葉が伸びている	46	4.3	5.5
出穂しているイネ科雑草がある	26	2.6	5.6

表-3 水田内での斑点米カメムシ類すくい取り結果(7月4～5半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジ		アカヒゲ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2019	2.1	18.8	1.9	7.5	0.3	11.3
平年	0.5	15.3	0.3	7.2	0.1	7.8
概評	多	やや多	多	並	多	やや多

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>